

令和 5 年 3 月 3 1 日

十勝川水系河川整備計画を変更しました

～近年の洪水や気候変動の影響、流域治水の観点を踏まえた治水対策を推進～

北海道開発局では、「十勝川水系河川整備計画」の変更に向けて、河川法第16条の2の規定に基づき手続きを進めておりました。

今般、十勝川流域委員会、関係住民及び北海道知事等のご意見を踏まえ、令和5年3月31日付けで「十勝川水系河川整備計画」を変更しましたので、お知らせします。

整備計画変更のポイントは、以下のとおり。

- ① 平成28年8月洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備（既存ダムの有効活用等）
- ② 流域治水への転換を踏まえた治水対策（流域治水の取組推進）
- ③ 最新の動向や答申等による見直し（かわまちづくりと連携したにぎわいの創出など）

詳細については、以下の帯広開発建設部のホームページにて公開しております。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ob/tisui/kds/ct111r00000096jz.html>

【問合せ先】

国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

河川計画課 河川計画管理官 田代 隆志（内線 5361）

河川計画課 開発専門官 佐々木博文（内線 5297）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部

治水課 課長 矢部 健一郎（電話番号 0155-24-4105 ダイアルイン）

治水課 流域計画官 猪子 長（電話番号 0155-24-4105 ダイアルイン）

帯広開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ob/index.html>



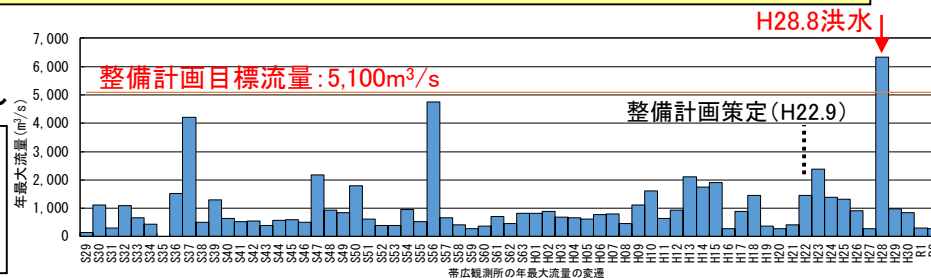
十勝川水系河川整備計画[変更]【大臣管理区間】概要（変更の背景）

・平成22年9月（平成25年6月変更）に策定した十勝川水系河川整備計画について、以下の点から見直しを行い、令和5年3月に変更しました。

① 平成28年8月洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備（既存ダムの有効活用等）

～現行整備計画目標流量を上回る洪水の発生～

・平成22年策定の現行整備計画の目標流量を上回る洪水が平成28年8月に発生し、流域全体で甚大な被害が発生しました。



帯広観測所 年最大流量

＜平成28年8月洪水被害状況＞



～将来の気候変動に伴う降雨量増大を考慮した河川整備計画の見直し～

＜地域区分毎の降雨量変化倍率＞

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言 改訂版（令和3年4月）より

・気候変動の影響により、2050年頃には各シナリオとも気温が2℃程度上昇することが予測されています。

・北海道では2℃上昇時に降雨量が1.15倍になることが試算されています。

地域区分	2℃上昇	4℃上昇	短時間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.5
九州北西部	1.1	1.4	1.5
その他（沖縄含む）地域	1.1	1.2	1.3

② 流域治水への転換を踏まえた治水対策（流域治水の取組推進）

～ハード対策のみならず、ソフト対策や流域対策など、あらゆる関係者により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換～

流域治水の3つの柱

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

■ 被害対象を減少させるための対策

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



③ 最新の動向や答申等による見直し（かわまちづくりと連携したにぎわいの創出など）

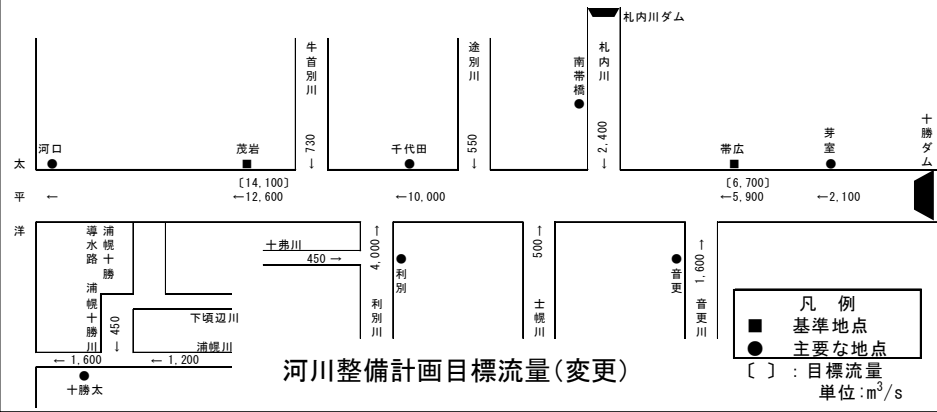
十勝川水系河川整備計画[変更]【大臣管理区間】概要（変更のポイント）

河川整備計画の目標流量

・ 既往最大洪水の平成28年(2016年)8月洪水を安全に流下させることに加え、気候変動後(2℃上昇時)においても、前河川整備計画(平成25年(2013年)6月変更)での目標と同程度の治水安全度を概ね確保できる流量を安全に流下させることを目標とする。

	帯広	茂岩
現行計画	(5,100) 4,300	(11,100) 10,300
変更計画	(6,700) 5,900	(14,100) 12,600

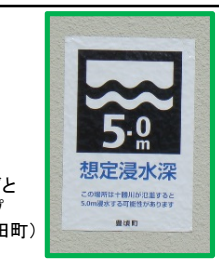
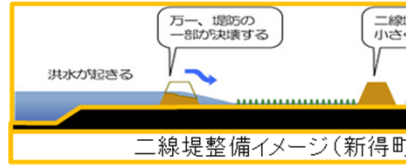
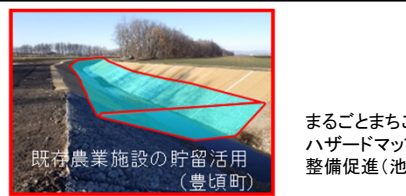
上段: 目標流量(m³/s)
下段: 河道配分流量(m³/s)



洪水を安全に流下させる対策(変更)



流域治水の取組推進



かわまちづくりと連携したにぎわいの創出(帯広市)



～既存ダムの有効活用のイメージ～

